



# 大阪プロバスクラブ

会報 第371号

2022年7月13日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111  
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時  
 ○創立 2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日  
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ  
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ  
 ○会長：有竹正巳 ○幹事：西宮富夫 ○事務局：（幹事宅）  
 〒563-0022 池田市旭丘2-6-25 Tel：090-7496-5096  
 ○会報担当：西宮富夫 [pxi06603@nifty.com](mailto:pxi06603@nifty.com)  
 ○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>  
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>  
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版  
<http://probuscent.exblog.jp/>

## R4年5月中旬から6月中旬まで1か月間の更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 第203号	「歯科医では虫歯の治療はできません」矢口敦久、「パリ・東京・夢のような」渡部京子、他
姫路南 （二水会）	会報 第111号	姫路南 RC 社会奉仕フォーラム出席報告、4万km歩いた男・伊能忠敬の「人生二度有り」（その14）松下秀明、他
神戸北	4年6月例会 ご案内	宮脇勝会長逝去報告、5月例会「ウズベキスタンの日々」山田博補、「ひとこと」弾昌子、他
東京多摩	プロバス ニュース 第100号	寄稿「我が故郷そのⅡ文豪山本周五郎生誕の地旧初狩村」小林務、寄稿「北欧3ヶ国福祉施設視察」鈴木達夫、他
東京八王子	プロバス だより 第318号	「東京八王子2022」関係（一瀬明）、卓話「陶芸にひかれた私」（塚本吉紀）、俳句同好会便り（河合和朗）、他
北九州	つながり 4年5月号	全日本プロバス協議会事務局報告、釜石市から感謝状、同好会活動報告：ワインを楽しむ会、他
大阪	会報 第369号	近況報告（上野昭代元会員）吉野へ行ってきた、近況報告（山村紗智子元会員）京都善峯寺へ行ってきた、他

## ●『金魚の昼寝』

（作詞：鹿島鳴秋、作曲：弘田龍太郎）

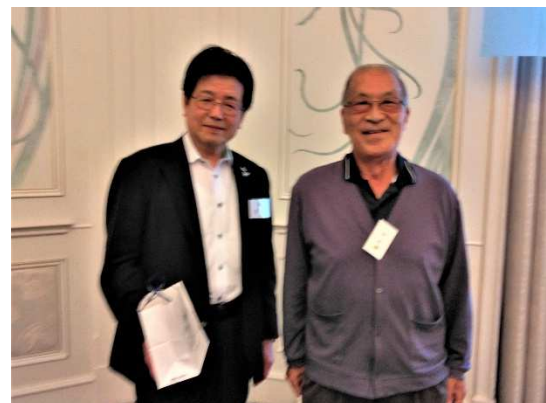
赤いベベ着た かわいい金魚  
おめめをさませば ごちそうするぞ

赤い金魚は あぶくを一つ  
昼寝 うとうと 夢からさめた

前回 第371回 通常例会 2022年6月13日（月）  
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

## ◎第371回 通常例会

○司会進行：野村尚子会員  
 ○ソング：吉川栄子会員 ●『海』  
 ○乾杯：吉田州伸会員  
 ○食事タイム  
 ○有竹正巳会長挨拶  
 ○西宮幹事報告：今期、全日本プロバス協議会常任理事（副会長）の川端会員が難聴のため次期副会長を辞退され、有竹会長が立候補されました。有竹会長は要介護2であるため、クラブから全日本への推挙文書に誓約書（自己責任で会合等に出席する）を追加する形をとることとし、快諾を得ております。  
 ○山下副会長：11月24日の全日本第10回総会・東京八王子大会の参加者募集の結果4名が参加することのこと。  
 ○出席報告：中井良美出席委員長より、会員16名、ゲスト1名（安達智恵子様）、計17名出席との報告。  
 ○西田副会長：来年度のホテルとの取り決めは、配布しました表の通りとのこと。  
 ○吉川会計より報告：次回例会時に4千円×3ヶ月+年会費1万円=2.2万円を徴収させていただきますとのこと。  
 ○誕生月会員：（左から）6月井門照和会員、12月宮田鐵夫会員



○OH-BOX 宮田委員長より8名8000円との報告あり。  
 ★有竹正巳会長：今年初のOH-BOX、お許しください。だんだんあつくなって。皆様健康です。どうぞお大事に。  
 ★川端崇且会員：もうすぐ梅雨入りですね。我家のツバメ今年は5羽誕生して5羽共昨日巣立ちました。  
 ★吉田州伸会員：明日から梅雨入りらしい。暑い夏がくるな～。皆、元気で乗り越えよう。  
 ★伊丹谷五郎会員：特になし。  
 ★山下恵司会員：特になし。  
 ★西宮富夫会員：腰痛は骨に変形あるためでした。直せないとのことでした。  
 ★浅山紀久子会員：今日うれしい事、入会希望者の安達智恵子さんです。よろしく願いいたします。

## 今回 第372回 通常例会・総会

2022年7月13日（水）

会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時  
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
  - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ  
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
  - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気  
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

## ◎卓話「妙心寺へ行ってきた」西宮富夫会員

以前より国宝「瓢鮎図」(ひょうねんず)に関心もあり、3月頃妙心寺退蔵院へ行ってきました。「瓢鮎図」(模写)は薄暗い和室の床の間にかかっていた。

退蔵院のすぐ横の妙心寺法堂の天井画「雲龍図」も見てきました。すごい絵でした。

## ◎国宝「瓢鮎図」(ひょうねんず)

妙心寺塔頭退蔵院所蔵 如拙作「瓢鮎図」国宝 1415年以前の作(国宝原本は京都国立博物館に寄託)

(画像引用元:「超ミステリアス。不思議な国宝「瓢鮎図」って何だ(和楽WEB編集部記事)」



退蔵院は1404年創建。応仁の乱(1467年~1477年)で焼失するも再建。

室町幕府第4代将軍足利義持が「丸くすべすべした瓢箪で、ぬるぬるした鮎(なまず)を抑え捕ることができるか」という公案(禅問答)を考え、その絵を如拙に描かせた。図上部に禅僧31名の讃がある。(1415年以前の作なので、そのころ将軍義持が禅僧を呼んで絵を見せ、感想を言ってもらった、と推測する。)

## ●瓢鮎図について一言

### ★瓢鮎図の讃(2例は上記記事より引用抜粋)

- ・(讃16)(優れた禅僧は)瓢箪に抑えられてもそこを脱し、きつと竜門の滝を登る。期待して眺めるとするか。
- ・(讃18)瓢箪もナマズもすべって抑えられぬ。見るものは大笑い(基本的に絵を見て笑う讃が多い。)

★感想:讃16は、ナマズ(ぬるぬる)を禅僧と考えて、優れた禅僧は現世の力に押さえつけられても、ピチピチはね

て、悟りに向かっていくはずだ。禅僧に期待してほしい、と読める。

また、讃18のようにナマズ(ぬるぬる)を「空(くう)、悟り」等と考え、ヒョウタン(すべすべ)を禅僧と考えると、禅僧の修行は「ヒョウタンナマズ」のようではないかという皮肉、とも読める。

禅の公案を考えた将軍義持は禅の修行をちょっとからかってみたかったのではないか。軍事力を掌握する征夷大将軍ならではの公案では、と思いました。また、禅僧を集めて絵の感想を言わせるなど、すごいと思いました。

## ◎妙心寺法堂天井画「雲龍図」

妙心寺法堂天井画 通称:『八方にらみの龍』1657年法堂創建時、狩野探幽(55歳)が天井に8年かけて「雲龍図」を描いた。

(画像引用元:必見「探幽の龍」京都花園の禅寺「妙心寺の見どころをご案内」(そうだ京都、行こうサイトより)



妙心寺法堂天井画「雲龍図」は、南側にある法堂入口をに入って(北へ向かって)右(東側)に行くと、龍が天から降りてくるように見える。さらに奥(北側)へ行くと龍は水平に飛んでいるように見える。さらに左側(西側)へ行くと龍は天に昇っているように見える。ものすごい迫力である。普通の天井画の龍は「絵」であるが、この龍は動いて見える。これはすごいと思いました。上記記事では、京都には「これは見ておいた方がいい」というものがあるそうですが、その一つがこの妙心寺「雲龍図」とされています。確かに一度は見ておいた方がいいものと思いました。

## ◎妙心寺の開基の頃:鎌倉時代から室町時代へ

妙心寺は1337年、花園上皇が離宮「花園御所」を臨濟宗の禅寺にしたのがはじまり。当時は下記年表の通り、鎌倉時代から室町時代へと大きく時代が転換したころなので、Wikipedia 後醍醐天皇より出来事を簡単に整理しました。

1318 95代花園天皇が(皇太子)後醍醐天皇へ譲位

1332 後醍醐天皇は、鎌倉幕府の両統迭立を壊すために討幕運動を行った、鎌倉幕府は天皇を隠岐の島(現在の島根県)へ流す。→隠岐の島を脱出し、鎌倉幕府倒幕の挙兵

(注)(wikipediaより)両統迭立(りょうとうてつりつ)は、一国の世襲君主の家系が2つに分裂し、それぞれの家系から交互に君主を即位



させている状態である。「迭」は「たがいに」「かわるがわる」の意。

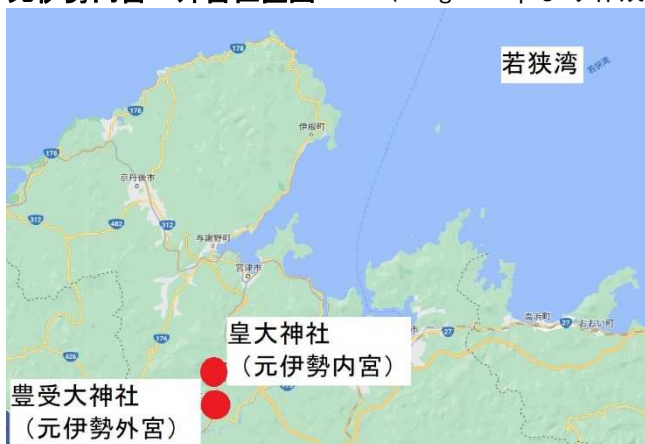
- 1333 これを追討する足利尊氏が直前で後醍醐天皇に味方し、新田義貞が鎌倉を陥落させる。→**鎌倉幕府滅亡**→後醍醐天皇「建武の新政」を開始
- 1334 後醍醐天皇「建武」に改元
- 1335 足利尊氏、後醍醐天皇と対立
- 1336 後醍醐天皇、吉野に脱出→南朝  
足利尊氏光明天皇を擁立→北朝→**室町に幕府を開設**
- 1337 **花園上皇（法皇）妙心寺を開基**
- 1339 後醍醐天皇死去（新天皇を擁立し南朝は継続）
- 1404 退蔵院創建
- 1415 頃 瓢鮎図
- 1657 妙心寺法堂創建（狩野探幽天井画「雲龍図」）

以上

## ◎近況報告：「丹後元伊勢神宮をご紹介」西田隆昭会員

（西田会員は）丹後の大江山の麓にある元伊勢神宮には、内宮、外宮、天の岩戸、猿田彦神社、宮川、五十鈴川、宇治橋などがあり、伊勢神宮そっくりなのでぜひ紹介したいとのこと。（会報担当より：西田会員より貴重な資料を提供していただきましたので、これを中心にネット画像なども加え、整理しました。）

### 元伊勢内宮・外宮位置図 (Google Map より作成)



### ●丹後国元伊勢豊受大神社由緒略記（現京都府福知山市大江町天田内 元伊勢外宮社務所）

（前略）天照大御神は天孫降臨以来皇居に奉斎せられていましたが第十代崇神天皇の代に至りまして天皇の御住いと同一皇居に御祭りしているのは誠に畏れ多いと思召され即位六年に倭国**笠縫邑**（かさぬいむら）に御遷座になりました皇女**豊鋤入姫命**（とよすきいりひめのみこと）が祭事を掌っていられたこの地に三十三年間御鎮座になりましたが別に大宮地（おおみやどころ）求めて鎮め祭れとの天照大御神の御神勅がありましたので同三十九年八月に当地を大宮地と定め給いて大和国**笠縫邑**より遷御されたのであります。

当地で始めて宮殿を建立され大御神を奉斎されたのであります。此の時**同時に豊受大神を合せ祀られたのが当社の創始**でありまして（中略）天照大御神は四年間御鎮座になりましたが更に大宮地を求めて当地を出御されます。

豊鋤入姫命は各地に大宮地を求めて御遷幸中既に老令に向かわれましたので途中第十一代垂仁天皇の皇女**倭姫**

**命**（やまとひめのみこと）が御引継ぎになられ垂仁天皇二十五年に現在の伊勢の**五十鈴川上を悠久の大宮地と定められ御鎮座**になったのであります。笠縫邑を出御されてより五十年の歳月を経ております。

（中略）第二十一代雄略天皇二十二年に皇祖天照大御神の御神勅が天皇にありました。その御神勅は「吾れ既に五十鈴川上に鎮り居ると雖も一人にては楽しからず御饌（みけ）をも安く聞し食す（きこしめす）こと能わずと宣（のら）して**丹後の比沼の真名井に坐（ま）せる豊受大神を吾がもとに呼び寄せよ**」との御告げでありました。

同様の御告げが皇大神宮々司大佐々命にもありましたので天皇に奏上されたところ非常に驚き恐れ給いて直ちに伊勢国渡会（わたらい）の山田ヶ原に**外宮**を建立され大佐々命をして豊受大神を御遷座になったのであります。今から数へて千五百年前のことであります。

然しながら豊受大神の御神徳を仰ぎ慕う遠近の信者は引き続き大神の御分霊を奉斎して**元伊勢豊受大神宮**と尊称し現在に及んでいるのであります。

『元伊勢豊受大神宮』（画像引用元：じゃらん）



### ●伊勢神宮（外宮）の豊受大御神（現在の豊受大神）

（以下の文章・画像とも正宮 豊受大神宮サイトより引用）



伊勢市の中心部、高倉山の麓に鎮座する豊受大神宮は、（中略）今から約 1500 年前、天照大御神のお食事を司る御饌都神（みけつかみ）として丹波国から現在の地にお迎えされました。内宮の御鎮座から約 500 年後のことです。以来、外宮御垣内の東北に位置する御饌殿（みけでん）では朝と夕の二度、天照大御神を始め相殿神（あいどののかみ）及び別宮の神々に食事を供える日別朝夕大御饌祭（ひごとあさゆうおおみけさい）が続けられています。

### ●日別朝夕大御饌祭（ひごとあさゆうおおみけさい）

『外宮の御鎮座から 1500 年にわたり、神様に朝夕のお食事を奉り、祈りと感謝を捧げる祭』

外宮の御鎮座に由緒を持つ日別朝夕大御饌祭は、内宮と外宮、別宮それぞれのご祭神にお食事を奉る神事で、外宮鎮座より約 1500 年間、朝夕の二度行われ、そのお祭りは禰宜 1 名、権禰宜 1 名、宮掌 1 名、出仕 2 名によって奉仕されます。

神饌は御飯三盛、鯉節、魚、海草、野菜、果物、御塩、御水、御酒三献と品目が定められ、御箸が添えられます。

神饌を調理するのは忌火屋殿という建物です。神に奉る神饌は特別におこした火で調理することになっており、その火を清浄な火という意味で忌火と呼んでいます。忌火は神職が古代さながらに火鑊具を用いておこした火でなければなりません。また、御水は外宮神域内にある上御井神社から毎日お汲みしてお供えされます。



火きり具で火をきり出す神職



毎朝、上御井神社から御水をいただきます

早朝、前夜からお籠もりした神職によって神饌が調理され、準備が整うと、忌火屋殿の祓所で辛櫃に納められた神饌を御塩でお清めして御饌殿にお運びします。

神饌は御饌殿の中で天照大御神を始め両宮と別宮のご祭神にお供えされ、禰宜が御饌殿の前で祝詞を奏上し、皇室のご安泰、国民が幸福であるようにと、日々祈りが捧げられます。



## ●丹後の祖神：豊受大神

(会報担当より：以下は、西田会員より提供の”新人物往来社「別冊歴史読本」21 巻 4 号 H8 年 1 月 12 日発行「元伊勢神宮」(作家山本平九郎)”より引用した。丹後の祖神である豊受大神が天照大御神に呼ばれて伊勢に遷座されたことは、丹波・丹後の人々の誇りというべきものと考えます。)

(前略)伊勢の外宮はもと丹波(丹波・丹後)にあったものを伊勢へ遷したという記載が伊勢神宮の古記録にあるが、(中略)丹後国はもと丹波国とあわせて一国であったが、元明天皇のとき丹波国 5 郡を割いて丹後国とした。

ここを丹波というのは、昔、**豊受大神がこの国に降臨**したとき、天道日女命などが五穀や養蚕の種をもらい、真名井に井戸を掘り、水田や陸田を開いて蒔(ま)いたところ、稲穂が田に満ち満ちたので、豊受大神は大いに喜び、「あなえにし田庭なるかも」と言われたので、ここを田庭というようになったとのことである。

このように豊受大神は丹波(丹後)に降臨し、丹後地方勢力の祖神として位置づけられた稲作の神なのである。

(中略)また丹波・丹後が朝廷の大嘗祭の主基(すき)国となっていることから、この地方は稲作の先進地であったと推定できる。



(画像引用元：まるごと北近畿より引用加工)

## ●まとめ

(会報担当より：下記の西暦表示は「上古天皇の在位年と西暦対照表の一覧」Wikipediaより転記。)

- ・ **第 10 代崇神天皇 6 年(紀元前 92 年)** 天照大御神を倭笠縫邑へ遷座。同 39 年(紀元前 59 年) 笠縫邑から丹後比沼の真名井ヶ原に遷御。(同時に丹後の祖神豊受大神をも合せ祀る)
- ・ **第 11 代垂仁天皇 25 年(紀元前 5 年)** 天照大御神伊勢の五十鈴川上に鎮座。
- ・ **第 21 代雄略天皇 22 年(西暦 478 年)** 天照大御神が豊受大御神を呼び寄せる。
- ・ **第 43 代元明天皇(在位 707 年~715 年)** 丹波国 5 郡を割いて丹後国とした。(元明天皇は和同開珎を鑄造、平城京遷都、古事記を献上させた、他)

以上

次回 第 373 回 通常例会 2022 年 8 月 10 日(水)  
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00





## 大阪プロバスクラブ

会報 第328・329号

2018年1月15日発行

Monthly Bulletin of  
The Probus Club of Osaka